



動物レスキュー通信

2016年 7月 第38号 (平成28年7月1日発行)

発行元 一般財団法人 国連世界動物救済支援機構 詩月財団

詩月(しづく) : 詩月財団 理事長
愛玩動物飼養管理士 一級
お問い合わせ : sizuku.foundation@gmail.com

ネコちゃん緊急事態

対処方法を知っておきましょう



人間とネコちゃんが共生する中で、人間にとつては便利だったり不可欠だったりすることや物が、ネコちゃんにとつては危険であったり、危険を及ぼしてしまうこともあります。そんな中で愛猫が緊急事態に陥ってしまった場合、ネコちゃんの命を救える可能性もあるにも関わらず、飼い主さんがパニックになり、最悪の事態を招いてしまわないために、普段からの備えや知識を頭に叩き込んでおくことはとても大切です。事前にできることとしてはかかりつけの動物病院の診察時間や休日、電話番号などはすくなくわかる所にメモしておきましょう。そして夜間や休日など、救急対応してもらえる動物病院を探し、実際にその場所を訪れてみるなど、きちんと確認しておくことも大切です。

考えられる緊急事態

「誤食・誤飲」遊んでいたおもちゃを飲み込んでしまったり、毛糸や紐、ビニール袋などを食べてしまう場合もあります。この場合、何をどれくらい食べてしまったのかで、できるだけ把握できるよつにしましょう。かかりつけの獣医さんに電話し、状況を詳しく説明して獣医さんの指示に従ってください。万が一、誤食したものが口から出ている場合でも、先がどこにつながつているかわかりませんので無理に引っ張ったり、吐かせ

ようとするのはよくありません。また、そのまま水を飲ませたり、何かを食べさせさせる事も避けてください。途中でネコちゃんが嘔吐した場合には、嘔吐物を持って動物病院に行きましょう。「出血」爪が引っ掛かっではがれたり、とがったものを踏んだ、ほかのネコちゃんと喧嘩したなどで出血を伴う事があります。これらの場合、大きな傷でない限りは清潔なタオルやガーゼなどで出血している部分を包んで軽く圧迫すれば3~5分ほどで止血できるはずです。しかしけんかなどによる出血の場合は化膿する可能性もありますので、傷口の状態をよく確認し、シヨクシヨクしてなかなか治らないときは動物病院を受診したほうがよいでしょう。「やけど」ストーブの上に乗ってしまったたり、熱湯をひっくり返してしまつたなど、やけどをしてしまつたことがあります。この場合にも部分的なやけどならば冷却剤や濡れタオルなどで患部を冷却してあげてください。しかしやけどが広範囲に及んでいる場合は命にかかわる危険がありますので、大至急動物病院を受診して下さい。その際には患部を冷やしながら動物病院に向かうようにしましょう。「感電」ネコちゃんは電気コードが大好きですので通電しているコードを噛んで感電して、口の中や舌のやけどをおつてしまつたことがあります。その場合、まずは無理やり離そうとせず、電源を切る、もしくはコードを抜いてあげてください。そしてその後は獣医さんを受診してください。「交通事故」完全室

内飼いても、何かの拍子におつちを脱走し車に轢かれる、はねられることがあります。苦しそつに呼吸をしていたり、逆に全く意識がない場合には脳や内臓に大きなダメージを受けている可能性がありますので、できるだけ動かさないように気をつけて、急いで動物病院を受診して下さい。「けいれん」てんかんや肝臓、腎臓などが原因でけいれんが起る場合があります。この場合、慌ててネコちゃんをゆすつたりせずに、周囲を片づけたら、ネコちゃんを高い所から低い所へ移してあげるなど、ネコちゃんがけがをしないように気をつけてあげてください。そして可能であればけいれんの時間を計測したり、様子を動画で撮影するなどできれば、獣医さんにけいれんの様子を正確に伝えることができるので、診察の助けとなります。

さまざま原因で起るネコちゃんのアキシント。起らないのが一番ですが万が一、起つてしまつた場合もあせらず落ち着いて対処する事がとても大切です。そして日頃から、アキシントが起らないように予防をすることが重要です。誤食・誤飲をしないように危険な物はネコちゃんの目につくところや手の届くところには置かない、ストーブや火のある所には近づけないように工夫する、脱走できないように防止アイテムを取り付けるなど、我が家で起こりうるアキシントを想定し、具体的な対策を立てて予防を実施して下さい。また、病気の場合には日頃からネコちゃんをよく観察し、少しでも病気の兆候が見られた場合には早めに獣医さんを受診するよつに心がけましょう。そうすることによつてネコちゃんと飼い主さんの関係が良好なものとなり、不幸なネコちゃんがいなくなるかと確信しております。(詩月)